

初めに

2014年度がはじまりました。
年度末には、小学校や保育園などの卒業式に招かれ、微笑ましくも頼もしい子供たちや少年の姿を見ることが出来ました。

しかし、一番印象に残ったのは子どもの成長に感動する保護者の皆様の姿でした。

私が子供の頃には、この光景を理解することは出来なかったと思います。

そして、自分の親も今日の保護者の皆様と同じ想いを感じてくれたのではないかと。人間社会は同じような感動や想いが連続して、今があるのではないかと。

そんな当たり前のことが、どこか遠くに置いてきてしまっていたようです。
自分の親やご先祖への「感謝」というものを今後、忘れずにいたい。

ひるがえって、政治に目を向ければ、未来の子ども達に感謝される行動がしっかり出来ているのだろうか。

必要以上の借金・支出をして、未来に問題を先送りにはしていないか。

「政治は豆腐の箱の如し。箱が歪めば豆腐も歪む」

二宮金次郎（尊徳）の言葉に、自身の責任も認識して、残り1年の任期を全うしたい。

豊川市議会議員(豊川市民オンブズマン代表) 倉橋英樹



視察旅行費の残金について

豊川市の行政視察では、その費用を概算払いで計算して、実際の支出額がそれを下回ると議員個人に残金が渡るようになっていきます（詳しくは活動報告 3に記載）。

私は、この制度を是正させるため、一般質問で取り上げるなどしましたが、現在まで改善されていません。

即時返還したいところですが、公職選挙法により、議員の寄付行為が制限されています。そこで視察旅費の残金を皆様にご報告し、失職時に返還できるようにしています。

年度/合計	旅費残金	備考
平成 23 年度分	5,270円	
平成 24 年度分	5,827円	事務局からの返金は827円
平成 25 年度分	6,959円	事務局からの返金は1,559円
合計	18,056円	

25年度分は、実際に受け取った金額は1,559円でした。

これにプラスして視察旅費会計に視察後の夕食時の飲み放題料金などが視察の経費として計算されていた為、私が独自に金額算出（聞き取り）を行い、5,400円を加えました。

* 政務調査費82万8千円（3年分）は、受取り拒否が可能でしたので既に豊川市財政に戻されています。政務調査費が無くとも、議員活動は十分に行えています。

オンブズ議員の活動報告

主権者の皆様へ

～経済効果って何だろう？（B-1グランプリ）～

B-1グランプリ in 豊川の経済効果は愛知県全体で35億円、東三河で20億円だったと発表されました。

この算出根拠について、調べたところ...
一般に云う経済効果は、「お金がどれくらい動いたか」を推計するもので、国民の財布や税金にダイレクトに反映されるものではありませんでした。

しかも、例えば300円のいなり寿司の購入の経済効果を推計するとき、なぜか材料費などの金額も上乘せされて、450円の効果があったとされます。そもそも材料費は商品代の300円の中に含まれている筈なのに...（数字などは分かり易くデフォルメしています）

また、イベントなどで浪費した人が、明日から財布のひもを締めようとなった時、そのマイナスの効果もある筈ですが、経済効果には含まれていません（プラスしか考えないのです）。

各国のオリンピックでも大きな経済効果が発表され、確かに景気も一時浮上していますが、その後の財政難によって景気が後退しているのは、その表れであると思います。

豊川市のB-1グランプリにおいても、20億という数字をそのまま実感することは出来ないうし、またその数字にかまけていてもいけません。

それでは、B-1グランプリ開催において一番の収穫は何だったのでしょうか？
私はTVなどメディア露出による知名度の向上だったと思います。

今後、この知名度を活かし、先進的な取り組み、或いは古き良き伝統の発信・発掘を考え、全国にアピールしていかなくてはならないと思います。

B-1誘致の本当の成否は、これからのまちづくりに掛かっているのではないかと。

オンブズマンって何？私が名乗る「オンブズマン」は何を指すのか？質問を頂きました。

簡単に言えば、「監査する人」を言いますが...
行政職の監査委員と違い、住民が自発的に情報公開や調査を行い、必要であれば監査請求などをして、国民への利益侵害や無駄遣いを是正させる活動を行います。
議員も同じような役割を担っていますが、オンブズマンにはよりタブーのない活動（無私無偏の精神）が期待されています。
私は「議員」となっても、その原点を忘れず行動規範とする為、今も名乗っています。

ご意見やご質問、情報提供などお待ちしております。

制作及び 文章責任	くらはし ひでき 倉橋 英樹	連絡先（携帯） 090-6577-6895 i_do@c.vodafone.ne.jp
住所	愛知県豊川市御津町広石広国49-1	
ホームページ	http://www.saturn.sannet.ne.jp/kura	

ホームページは「倉橋英樹」で検索！詳細意見や議会動画を見て頂けます。

3月定例会 / 一般質問

今回は【住民意思反映のための住民自治の拡充】、【B-1グランプリ in 豊川】の2点について質問をしました。

住民意思反映のための住民自治の拡充について

政治は、直接市民の意思を毎回聞くには非効率であるため、議会と云う間接民主主義によって運営されています。けれど、選挙の時だけで全てをお任せにしていたら・・・
 きっとこの国の民主主義や政治が発展していかないと、質問をしました。

(質問・答弁要旨抜粋)

Q (倉橋の質問)	A (市当局の答え)
直接、広範な市民の声を反映させるため、本市が取り組んでいる制度は？	市民何でも意見箱や市民何でも意見メールボックス、市民意識調査、市民へのアンケート調査、パブコメ(パブリックコメント)の実施などがあります。
それぞれの制度の課題について、認識を聞きたい。	意見箱やメールボックスは、局所的な意見も多く、ストレートに施策に反映させ難いです。 パブコメは、意見が少ない案件も多く、制度を生かし切れていないという課題があります。
パブコメは案が煮詰まっている状態で募集して、良い案が反映できない可能性も有るのではないかと。募集時期をもう少し前に行くなど、検討すべきではないか。	最終的な意思決定期限などを考慮し、内容の修正など、寄せられた意見等を反映することが十分可能な時期としているが、パブリックコメント 実施部署に再確認していき たい。
住民投票制度のメリットとデメリットをどう捉えているか。	メリット・・・住民の意思表示を行うことができ、住民の議論や参画の機会を提供できます。 デメリット・・・少数の犠牲の上に多数の利益を擁護する危険性、市長・議会の責任回避に繋がりがねません。
市長・議会の責任回避ではなく、主権者の意思に反することを議会・市長が行おうとした時に、発動させられるものとする。常設型住民投票制度の設置を検討してはどうか。	現在、本市において住民投票制度を常設としなければならないような喫緊な課題が山積している認識はもっておりません。 現時点で常設型の住民投票制度を導入する考えはありませんが、制度についての認識を深めていきたい。
東三河市構想などが眼前に迫ってきたときには、住民投票をするべき課題として考えるのか。	市政の重要な課題について、市民の方や議会において住民投票をすべきとの機運が高まるのであれば選択肢から外れるものではない。
市川市などには「市民活動支援制度」というものがある。これは市民税額の1%相当を市民自身の選択によって補助額を決定するもので、市民自身が自分の治める税額を知る機会にもなり、また自分の税金をどう使うべきかを考えるという、まさに「民主主義の学校」的な1つの施策だ。本市も検討すべきではないか？	市民活動支援制度は市民活動に対する理解関心を高め、市民活動団体の活性化が図られるメリットがある。 今後、多くの市民活動団体へ運営費の補助をするということになれば、配分額を決定するためのひとつの方法だと思います。 この仕組み、運営状況について調査研究をしていきます。

(ここで紹介されている内容は、3割程度の内容となっています。詳しい議事録は市のHPにあります)

税金の使い方を考えよう

B-1グランプリ in 豊川 (まちづくり) について

昨年11月に行われたB-1グランプリは、2日間で581,000人の来場者を迎え、TVなどでも大きく報道されました。その経済効果や今後のまちづくりをどうすべきか、という視点で質問しました。

(質問・答弁要旨抜粋)

Q (倉橋の質問)	A (市当局の答え)
経済波及効果はどれくらいあったか？	県全体で約35億円と推計され、そのうち東三河地区への経済波及効果は約20億円です。
市職員は仕事としてB-1に参加し、一般ボランティアは無償であった。たべりんくうポン券を差し上げるなど、一般ボランティアへの「おもてなし」も今後、検討すべきではないか。	的確な判断や指示ができる行政スタッフの配置は、安全で安心なイベントの実施にはなくてはならない。 ボランティアの有償化は、大規模なイベントではそれに要する相当の予算も必要となることから、今回はスタッフTシャツと弁当、お茶の提供のみとしました。
使われなかったチケットの残金額と、その処理をどうしたのか。 (この残金の存在から、上の質問のボランティアへの有償化検討を訴えました)	たべりんくうポン券の未使用金額は735万9675円です。 (処理の内訳は以下の通り) 事業費への充当・・・・・・・・約486万円。 愛Bリーグ本部への分配金・・・・125万円。 本市ふるさと応援基金に寄付・・125万円。
まちづくりは特定のグルメだけでは限界があると思う。 本市は今後もB-1に拘るのか。	各界から様々な意見を参考に今後の観光によるまちづくりの在り方、観光振興策について検討していく。
富士宮市では、ご当地グルメを活用した「フードバレイ構想」を持っている。これを参考に豊川市独自の構想を考えてはどうか。おもてなしの心をキーに「おもてなしバレイ」など、市全体で参加できるものが良いのではないかと。	富士宮市のフードバレイ構想は、食の生産から製品加工、流通、販売、消費まで関連する食を活かした産業振興と市民の健康づくり活動として進んでいる。 本市においては、今後の観光基本計画の策定や次期豊川市総合計画の策定時に合わせて検討していく必要があると考えている。
知名度が上がった「いなり寿司」や「いなりりん」などを活かした新しいチャレンジを考えているか。 アプリの活用等、時代に合わせた取り組みは考えないか。	スマートフォン用アプリに「いなりりん」が登場するとか、観光情報を提供するような活用法について、事業者から提案もある。 ただ、比較的開発経費も高額な場合も多く、費用対効果を考えながら検討していく必要がある。

アプリの活用について(補足)

アプリについては新規開発の他にも、既にあるゲームアプリとのコラボを紹介したい。携帯電話の位置情報を使って移動距離などを競うアプリがあり、ある自治体に行くとアプリ内で特典がもらえる等、遊びながら観光をしてもらうという試みが他市で行われています。

今の時代、電車に乗ってすぐ携帯をひらく若者が多数です。これを嘆かれる方も多くいるでしょう。しかし、それも裏返しにして見てみると・・・。
 普段、行政がいくら呼びかけても耳に入ってくれない、また豊川市に興味もないはずの遠く離れた地域の若者が、豊川市を見てくれ、更に足を運ぶツールにもなり得るのです。

時代の流れ、顧客の目線に立ち、外貨を稼ぐシティセールスを真剣に考えたい。